

第4回POC超音波研究会ハンズオンセミナー コース紹介

ハンズオンセミナー1 <運動器・軟部組織領域> (3時間)		
コース名：極める！超音波ガイド下Hydrorelease		
目的と内容：超音波ガイド下HRの標的は、関節内ではなく関節外、脊柱管内ではなく脊柱管外にある末梢神経です。使うのは薬剤ではなく生理食塩水。末梢神経の描出と針刺入のコツを身に付けければ、外来診療のストライクゾーンが一気に広がります。疼痛に対する治療スタイルを根底から覆す最新技術HR、明日からの診療に役立てていただきたいと思います。		
受講対象者：特に制限ありません。		
開催 1月13日(土) 10時～13時 (3時間)		
インストラクター	伊東 紘一	済生会陸前高田診療所
	皆川 洋至	城東整形外科
	白石 吉彦	隠岐島前病院
	小淵 岳恒	福井大学 地域医療高度化教育研究センター
	松崎 正史	ソニックジャパン株式会社

ハンズオンセミナー2 <領域横断> (1日コース)		
コース名：DASHでRUSH！ ～ショック患者にPOCUSですばやく対応するために～		
目的と内容：Point-of-care超音波（POCUS）は安全、低コストであり、ベッドサイドですぐに利用可能でかつ繰り返し施行できるため、患者の診療方針決定や処置をタイムリーに行うことが可能です。（良いことづくめ！）そのような中、救急外来にはショック状態で搬送されてくる患者も非常に多いですが、従来であればバイタルサイン確認後、ルート確保して、血液検査、ポータブル胸部レントゲン写真撮影（外傷であれば骨盤も追加）、その結果をイライラしながら待ち、その結果によってはCTへ、そして診断、治療と診療が流れていくと考えられます。待たなしのショック患者の対応において、この診断、治療までの一連の工程をいかに迅速に、そして的確に行うことができるかということが患者の予後にも反映されるため非常に重要視されます。従来の流れでいくと診断、治療まで大変な時間を要します。少なくとも5分以内で診断、治療までというのは非常に困難なのではないでしょうか？ 今回ご紹介させて頂く、RUSHというショック患者に対するPOCUSプロトコールはpump（心臓）、tank（胸腹部）、pipes（血管）の3本柱で構成され、慣れてくれば5分以内に行うことが可能です。ハンズオンでは「明日から使える」をキーワードに実際にどのように行っていくのわかりやすく説明しながら進めていきたいと考えています。		
受講対象者：特に制限はありません。		
開催 1月13日(土) 9時50分～17時10分(昼休み含む)		
ディレクター	真弓 俊彦	産業医科大学 救急医学
コーディネイター兼インスト	小淵 岳恒	福井大学 救急部・総合診療部
	瀬良 誠	福井県立病院 救命救急センター
インストラクター	森 崇晃	KK Women's and Children's Hospital, Singapore
	竹井 寛和	都立小児医療センター 救命救急科
	矢吹 拓	栃木医療センター 総合内科

ハンズオンセミナー3 <肺・気道> (3.5時間)		
コース名：肺・気道ハンズオン		
目的と内容：肺は従来超音波検査では検出できないとされてきましたが、現在では、LancetのARDSの総説の中に登場するに至っています。呼吸不全患者にも適用できる基礎を身に付けるため、基本画像の描出、病的所見の確認を行います。気管挿管の確認のための気道超音波検査は、蘇生ガイドライン2015の中でも取り上げられています。短時間で判断できますが、手法は意外と知られていません。基本画像の描出ができることを目的に講義と実習を予定しています。		
受講対象者：肺気道超音波検査に関心を持ち臨床応用を目指す医療従事者		
開催 1月13日(土) 13時40分～17時10分 (3.5時間)		
ディレクター	小林 英夫	防衛医科大学校 呼吸器内科
コーディネイター	福原 信一	兵庫県立淡路医療センター 小児科
インストラクター	鈴木 昭広	東京慈恵会医科大学 麻酔科
	関谷 充晃	済生会川口総合病院 呼吸器内科
	山田 直人	岩手医科大学 麻酔科
	谷口 隼人	横須賀共済病院 救命救急センター
	濱野 雄二郎	信州大学医学部附属病院 高度救命救急センター

ハンズオンセミナー4 <腹部> (3.5時間)		
コース名：腹部		
目的と内容：基本的には急性腹症におけるトリアージを想定し、それに関連する各臓器の描出法をトレーニングする。大まかな領域としては肝・胆膵・腎・脾・消化管・大血管である。癌のスクリーニングは想定していないので、細かなテクニックに関しては割愛するか、ハンズオンの現場で各受講者のレベルや要望に合わせて対応する。		
受講対象者：POCUSや救急医療に興味のある医師を対象とする。		
開催 1月14日(日) 8時50分～12時20分 (3.5時間)		
ディレクター	真弓 俊彦	産業医科大学 救急医学
コーディネイター	畠 二郎	川崎医科大学 検査診断学
インストラクター	石井 浩統	日本医科大学 救急医学
	小川 真広	日本大学医学部 消化器内科
	竹井 寛和	東京都立小児総合医療センター 救命救急科
	今村 祐志	川崎医科大学 検査診断学

ハンズオンセミナー5 <頸部> (3.5時間)		
頸部超音波ハンズオン		
目的と内容：頸部領域は重要な臓器が集中して存在しており、解剖の把握、特に気道、脈管系の異常は生命的な予後に直結する問題である。頸部領域の異常を早期に察知するためにPOCUSが重要となる。頸部領域を超音波を用いて診療する際の基本的事項、観察すべきポイント、異常発見時の応急処置における超音波活用について理解を深めることを目的とする。		
受講対象者：POCUS研究会会員		
開催 1月14日(日) 8時50分～12時20分 (3.5時間)		
ディレクター	古川 まどか	神奈川県立がんセンター 頭頸部外科
インストラクター	福原 隆宏	鳥取大学 耳鼻咽喉科
	古川 政樹	ひろ・やまクリニック 医療情報学
	下出 祐造	金沢医科大学 頭頸部外科
	渡邊 至	横浜南共済病院 麻酔科

ハンズオンセミナー6 <神経・血管> (3.5時間)		
コース名：神経・血管系		
目的と内容：神経と血管、組織は異なるが、体幹から四肢に分布するときに両者は伴走し、密接な関連がある。超音波での神経の検索・同定には伴走する血管を視標とすることが多いし、また大腿神経ブロック時に大腿静脈で深部静脈血栓症(DVT)を診断したなどの報告も聞かれる。今回の神経系HOTは整形・麻酔科領域で非常に浸透している超音波ガイド下末梢神経ブロック(上肢、下肢)とした。この手技を手術室外(救急外来など)で行うことができ、直ぐに患者の疼痛管理また治療に役に立つ。また上肢で正中神経の走行を把握できれば、血管穿刺時の神経障害のリスクも減る。血管系HOTはIVC計測とDVT検索、およびカテーテル挿入とした。両者の診断技術は、ショック診断に非常に有用である。IVC径は体内血管内容量の指標の一つであり、またFluid responsivenessの評価にも最近使われている。DVT検索・診断は在宅から手術室まで、ショックの予防から診断まで多種多様に用いられている。このHOTを通じて、神経血管系POCUSを確実に学んで、臨床に役立てて欲しい。		
受講対象者：超音波を用いた診療の初学者		
開催 1月14日(日) 13時40分～17時10分 (3.5時間)		
神経・血管	氏名	所属
ディレクター	野村 岳志	横浜市立大学 麻酔科
コーディネイター	児玉 貴光	愛知医科大学 災害医療研究センター
インストラクター	石田 亮介	島根県立中央病院 救命救急科
	太田 智行	東京慈恵会医科大学病院 放射線科
	川本 英嗣	三重大学附属病院 救命救急センター
	山本 寛人	東京医科歯科大学 麻酔科
	渡邊 至	横浜南共済病院 麻酔科

ハンズオンセミナー7 <心臓> (3.5時間)

コース名：ベーシックFoCUSで鑑別する胸痛

目的と内容：胸痛は日常診療で遭遇する頻度が高く、その原因によって治療方針が異なります。また、killer chest painと呼ばれる緊急対応を誤れば致命的となる疾患が含まれます。バイタルサインや、問診、そして心電図検査も重要ですが、その時心エコー図検査を行えば、一気に診断に至ることもありますし、診断には至らなくても少なくとも緊急性のある病態でないと判断することができます。今回の心エコーハンズオンでは、胸痛の鑑別診断を目的としたFoCUSの活用法について、少人数制グループでハンズオンセミナーを行います。領域別企画のライブデモンストレーションと連動していますので、ハンズオンセミナーを受講する方は、ぜひそちらを聴講してください。

受講対象者：FoCUSの基本を習得し実臨床で役立てたい方

開催 1月14日(日) 13時40分～17時10分 (3.5時間)

コーディネーター	山田 博胤	徳島大学大学院医歯薬研究部 地域循環器内科学
インストラクター	亀田 徹	安曇野赤十字病院 救急科
	泉 佑樹	日本医科大学付属病院 循環器内科
	泉 学	済生会宇都宮病院 総合診療科
	原田 顕治	自治医科大学 循環器内科学